

# 令和4年度事業報告書

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

## 1 事業の総括

2020年度以降続く新型コロナ感染拡大に関しては、観光への依存度が高いレイクセブ町チボリ民族の場合父母の収入減少等による SCMSI 校や ILS 校の授業料収入減、一方で、1年を超えて続くウクライナでの戦闘継続等に起因する電気代他諸物価高騰で、各学校の経費増、支援のニーズ増加となった。一方、支援する側の当団体も、会員の高齢化や諸物価高騰による会費や寄付収入の減少で赤字補填等の対応が必要になった。

国内活動に関しては、引き続き対面イベントは限定的で、ウェブ開催イベントも参加を見送ったため、前年度に続き、広報活動やハンディクラフト販売は最小限にとどまった。

団体運営については、ボランティアの新規参加で事務作業やハンディクラフト販売などの戦力が増加した。一方、懸案の運営の世代交代、事務所ごとの引継ぎの可能性は低いと考え、現地及び会員に対して、近い将来の法人解散の可能性を伝えるとともにその準備を進めた。

## 2 各事業分野における活動報告

### 1) 医療分野の事業

**助産所運営支援**：2002年以降続くモロ民族女性の医療チーム PIHS との協働事業は、主にモロ民族の村での医療保健研修及び保健ボランティア育成等のコミュニティーベースの活動ともに、2018年8月に認可を受けた助産所についても、2022年度は運営費支援を減らすことができるなど「母と子の命を守る」活動は順調に歩を進めた。これは妊産婦に対する保険加入推進のほか、前年度の診療車に続き、本年度も顕微鏡等の医療機器を支援したこと。また、コミュニティー活動を通じて、安全な助産所での出産を選ぶ妊産婦が増えることで、2023年度の助産所運営費支援はさらに収支が改善されて、自主運営に近づくと期待している。

**ビラーンの村ボルールの患者支援**：高度医療が必要なケース等、無料の公立病院で対応できない患者支援のためのヤギ飼育については牧草の質もの問題もあり、年度内には患者支援に充当する収益は上がらなかった。

### 2) 教育・人材育成の事業

引きつづき、SDGs「質の高い教育をみんなに」に関連した辺境を含む子どもの初等教育普及のため、また、各種知識・技能を持つ先住民族の専門家育成のための事業を現地パートナー5団体と協働した。

**CMIP との協働**：① CMIP が運営する辺境の小学校4校の給食支援 ② 医大生を含むカレッジ生7、ハイスクール生16、小学生4、計27名への奨学金支給 ③ 寮生指導を含む奨学生管理者2名の手当てを支援。

**SCMSI との協働**：① 奨学金：里子10名に各月額700ペリ、外部大学のカレッジ生1名に月額2000ペリ支給。② 1980年以降続く SCMSI 支援の一環として、9月の創立設立記念祭（レムルナイ）に寄付をした。

**ILS との協働**：① 辺境のチボリ民族年少児童のための教育普及に対して、教師給与及び給食支援を実施した。

**その他カレッジ奨学金支援**：① PIHS 経由臨床検査技師コース3年ザイラ ② TBA 経由3年生2名

### 3) 農村開発事業

**ILS との協働**：学校運営費自主財源、各種家畜飼、及び、バナナ栽培事業は、労働力提供の父母の参加で、各世帯における今後の収入向上事業実施に向けた知識や技能習得の機会となった。

**TBA との協働**：小規模アグロフォレストリの継続実施で住民も持続可能な収入向上の知識・技能を学んだ。

### 4) 環境保全事業

過去の事業のモニター実施・当団体への報告を継続。ただしコロナで対象範囲は限定的。

### 5) 女性自立

レイクセブ町辺境のティヌオス地区女性組合の活動拠点（傾斜地利用の2階建）を支援。ピクルス他食品加工品製造拠点で、販路はコロナ鎮静化で研修生が増えたレイクセブ町内「黙想の家」売店など。

### 6) 広報啓発活動及び事務局運営

イベント参加は限定的で、季刊「ビラーン通信」（109-112号）各200部発行、ホームページ（担当：高山）公開など限定的だった。事務局運営は前年に続き、専従山崎、非専従佐々木の2名が担当。前年度末に新規参加の武井さん夫妻が、会計及びハンディクラフト販売を担当した。

注：CMIP (Catholic Mission to the Indigenous People, Inc) 先住民族のためのカトリックミッション  
PIHS(Pasasambao Integrated Health Service, Inc.) パササンバオ（連帯の意）総合健康サービス  
SCMSI(Santa Cruz Mission School Inc.) サンタクルスミッション学校法人  
TBA(Tud Bolul Association) タッド・ボルル住民組合  
ILS (Indigenous Learning School) 先住民族学校